

バイオメディカ事業 群馬拠点 見学会

本資料は、PHCホールディングス株式会社（以下「当社」といいます）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券の購入、売却の勧誘を構成するものではありません。本資料には、当社の計画や戦略、業績の見通し等、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述には、別段の記載がない限り本資料の発表日現在における当社が入手可能な情報並びに当社の計画及び見込みに基づいた当社の想定、将来の見通し及び推測が含まれますが、これらが達成される保証はありません。様々な要因により、将来の予測・見通しに関する記述は実際の業績と大幅に異なる場合があります。したがって、これらの将来に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意下さい。また、独立した公認会計士又は監査法人による監査又はレビューを受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれていることをご了承下さい。当社は、適用ある法令又は証券取引所の規則により要求される場合を除き、本資料に含まれるいかなる情報についても、今後生じる事象に基づき更新又は改訂する義務を負うものではありません。本資料には、当社が事業を行っている市場に関する情報を含む、外部の情報源に由来し又はそれに基づく情報が記述されています。これらの記述は、本資料に引用されている外部の情報源から得られた統計その他の情報に基づいており、それらの情報については当社は独自に検証を行っておらず、その正確性又は完全性を保証することはできません。この資料に含まれる情報は、今後予告なしに変更されることがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

01 | 診断・ライフサイエンスドメインの位置づけ

02 | バイオメディカ事業のご紹介

02-1 事業概要

02-2 製品・顧客・強み

02-3 CGT領域の新製品

01 | 診断・ライフサイエンスドメインの位置づけ

02 | バイオメディカ事業のご紹介

02-1 事業概要

02-2 製品・顧客・強み

02-3 CGT領域の新製品



糖尿病マネジメント



BGM事業

CGM事業

ヘルスケアソリューション



LSIM事業



ヘルスケア
ITソリューション事業



CRO事業

診断・ライフサイエンス
ドメイン長: 中村伸朗



病理事業



バイオメディカ事業
事業部長: 高魚 力



診断薬事業



中計における診断・ライフサイエンスドメインの位置付け 1/3

中計における3つの重点施策のうちの1つとして、「診断・ライフサイエンス領域への注力」を掲げている

2030年の目指すべき姿

精緻な技術でヘルスケアの未来を切り拓くリーダーとなる

FY25

FY26

FY27

FY28

FY29

FY30

Phase 1

Phase 2

中期経営計画2027

成長に向けた基盤構築

重点施策

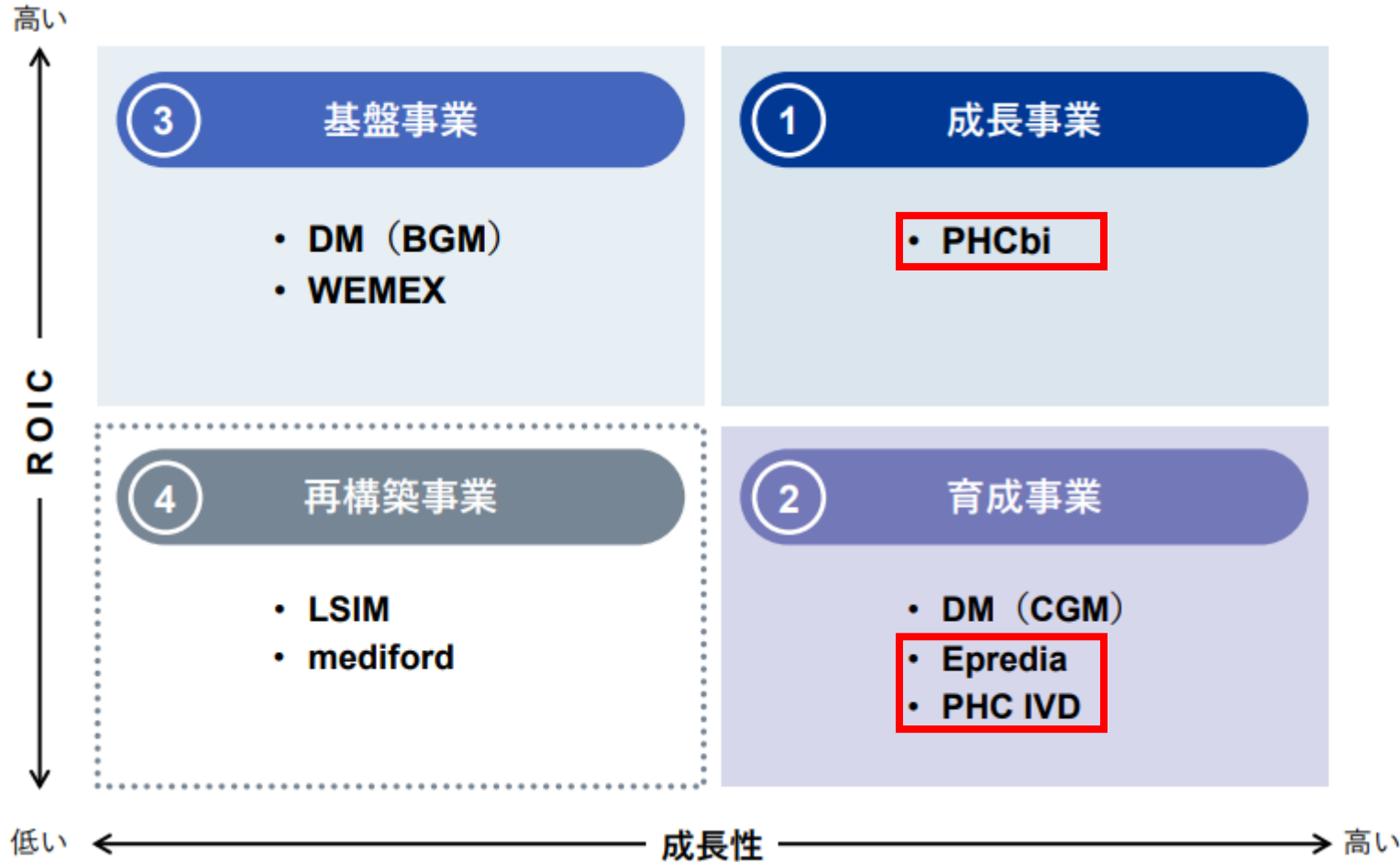
1. 収益基盤強化のための構造改革
2. ポートフォリオ管理強化
3. 診断・ライフサイエンス領域への注力

中期経営計画2030

診断・ライフサイエンス領域を核とした
持続的な成長の実現

中計における診断・ライフサイエンスドメインの位置付け 2/3

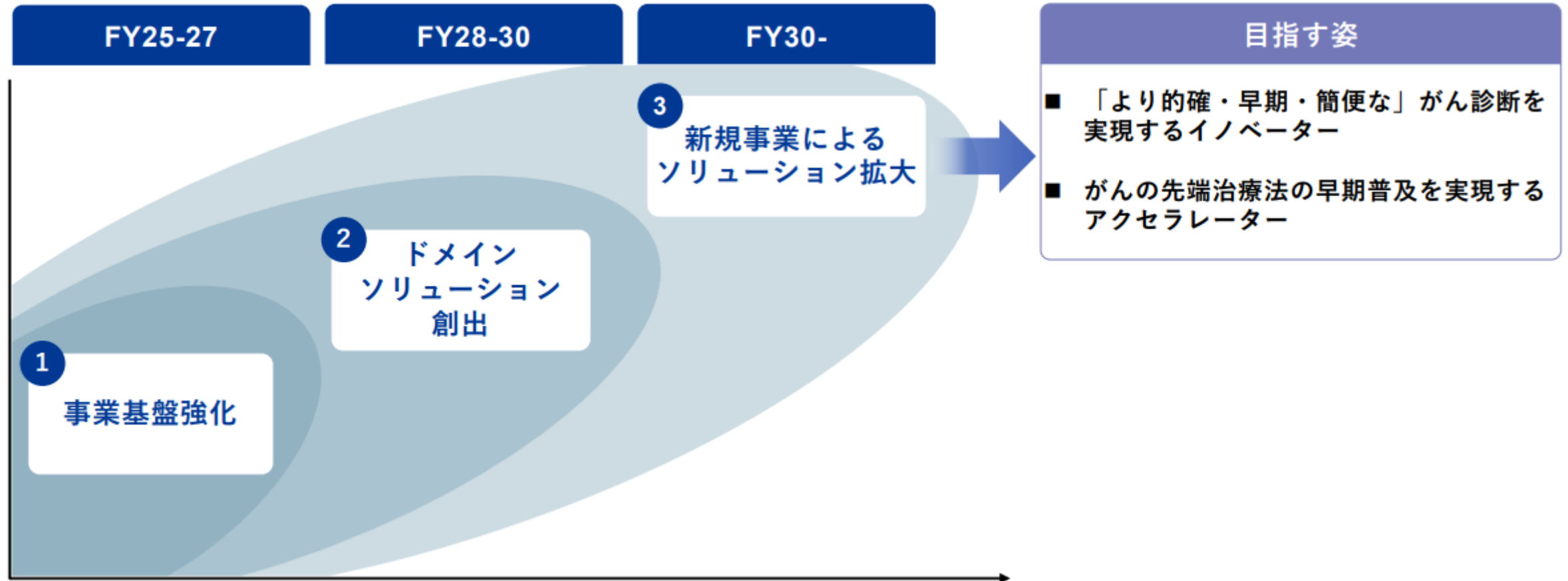
事業ポートフォリオ上、診断・ライフサイエンス領域の事業を「成長事業」「育成事業」に位置付けている



- ① 継続的な投資を行い成長を牽引
- ② 戦略的に投資を実行し成長事業に育成
- ③ 既存の事業基盤を強化し安定的に収益維持
- ④ 外部連携・資本の活用含め事業再構築を検討

中計における診断・ライフサイエンスドメインの位置付け 3/3

- ・本中計期間中はドメイン一体化を含む事業基盤強化に取り組む
- ・将来的には自社の強みを活かし、がんの領域において、診断・治療法の早期普及に貢献していく



01 | 診断・ライフサイエンスドメインの位置づけ

02 | バイオメディカ事業のご紹介

02-1 事業概要

02-2 製品・顧客・強み

02-3 CGT領域の新製品

ライフサイエンスと医療に新たな価値を創造し、
健康で豊かな社会づくりに貢献します

Life Science Innovator Since 1966



phcbi

・PHCbiが提供している価値は…

- 60年にわたり研究現場の非効率を改善し続けてきたこと
- 当社製品は研究室には必ずある、なくてはならない機器＝ファンダメンタルな機器であること

・ファンダメンタルな機器に重要な要素は以下のとおり

1

高性能・高品質な製品

基本機能の向上を追求しつづけ、高い品質レベルを実現

2

多様な顧客ニーズに応えたモノづくり

ユーザビリティを追求し、お客様の現場改善に貢献

3

グローバルな顧客基盤と高い市場シェア

各分野の幅広いお客様と強固な関係を構築

4

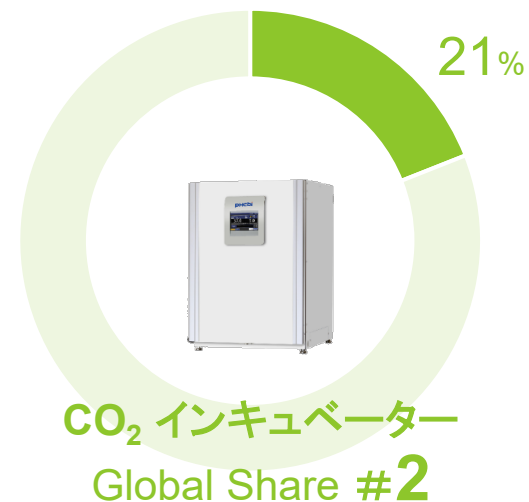
約110の国と地域でサービス体制を構築

きめ細やかなサービス体制でトラブルやお困りごとに迅速丁寧に対応

シェア、順位

- ・主力の超低温フリーザー、CO₂インキュベーターはグローバルで2位のシェアを誇る
- ・日本では、両製品ともに高いシェアで1位

主力製品のシェアとその順位*1



Americas	#2	23%	#2	24%
EMEA	#2	14%	#2	16%
Japan	#1	56%	#1	37%
APAC	#4	10%	#3	12%
China	#4	12%	#1	31%
推定稼働台数	200,000台以上		90,000台以上	

*1: シェア、順位はFrost & Sullivan 2024 report "Global Assessment of Life Science Equipment" 2023 Actualより作成

ライフサイエンスソリューションが主力。グローバルに製薬企業や研究機関、病院等に検体保存に必要な機器等を販売

Life Science Solution



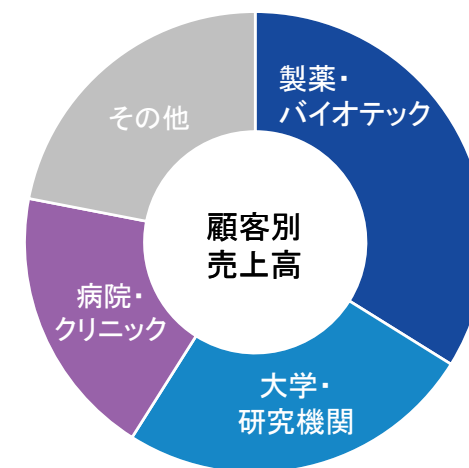
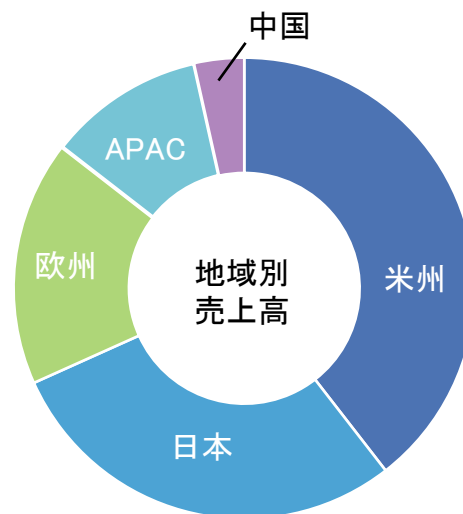
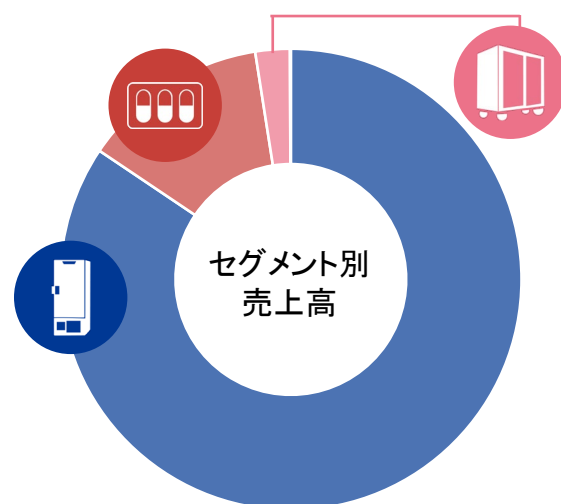
検体保存や細胞培養等に必要な機器・サービスの提供を通じ、
最先端の研究・次世代医療の発展を支援

Pharmacy Solution



病院の業務プロセス自動化による
リスクマネジメントと効率化に貢献

Food Solution



- ・1966年以降、60年にわたり築き上げてきた高い技術・品質で、業界をリードする製品を創出し、事業を拡大
- ・三洋電機(株)が源流。2012年にパナソニックヘルスケア(株)(当時)に統合され、PHCグループに

1966



*1
日本初

薬用保冷库

1973



*1
日本初

自動錠剤包装機

1977



超低温フリーザー

1984



CO₂インキュベーター

1991



業界最低温
超低温フリーザー

1995



適温配膳車
デリカート

2000



*2
日本初

セルプロセッシング
センター

2003



注射薬抽出システム

2007



セルプロセッシング
アイソレーター

2009



*3
業界初
技術

H₂O₂除染機能付き
CO₂インキュベーター

2009



モニタリングシステム

2022



*4
世界
トップ
レベル

省エネ
超低温フリーザー

2023



IoTソリューション

2024



ライブセル
代謝分析装置

委託も含めた製造拠点最適化の推進により、合理化された強固な製造体制を構築

●: 自社製造拠点

●: 製造委託先



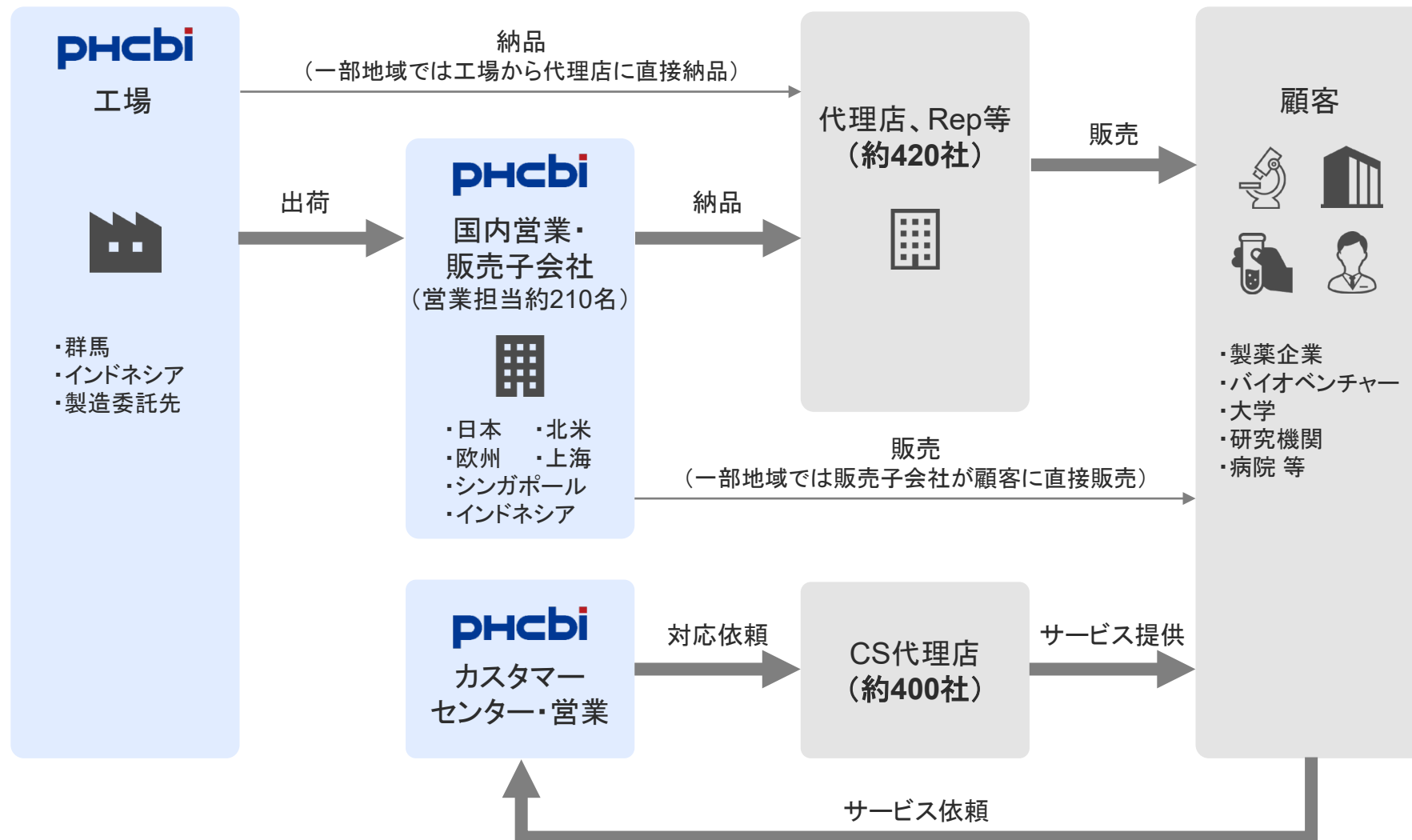
110以上の国と地域に販売

- : 販売拠点
- : 営業所・ブランチ



製品・サービスの流れ

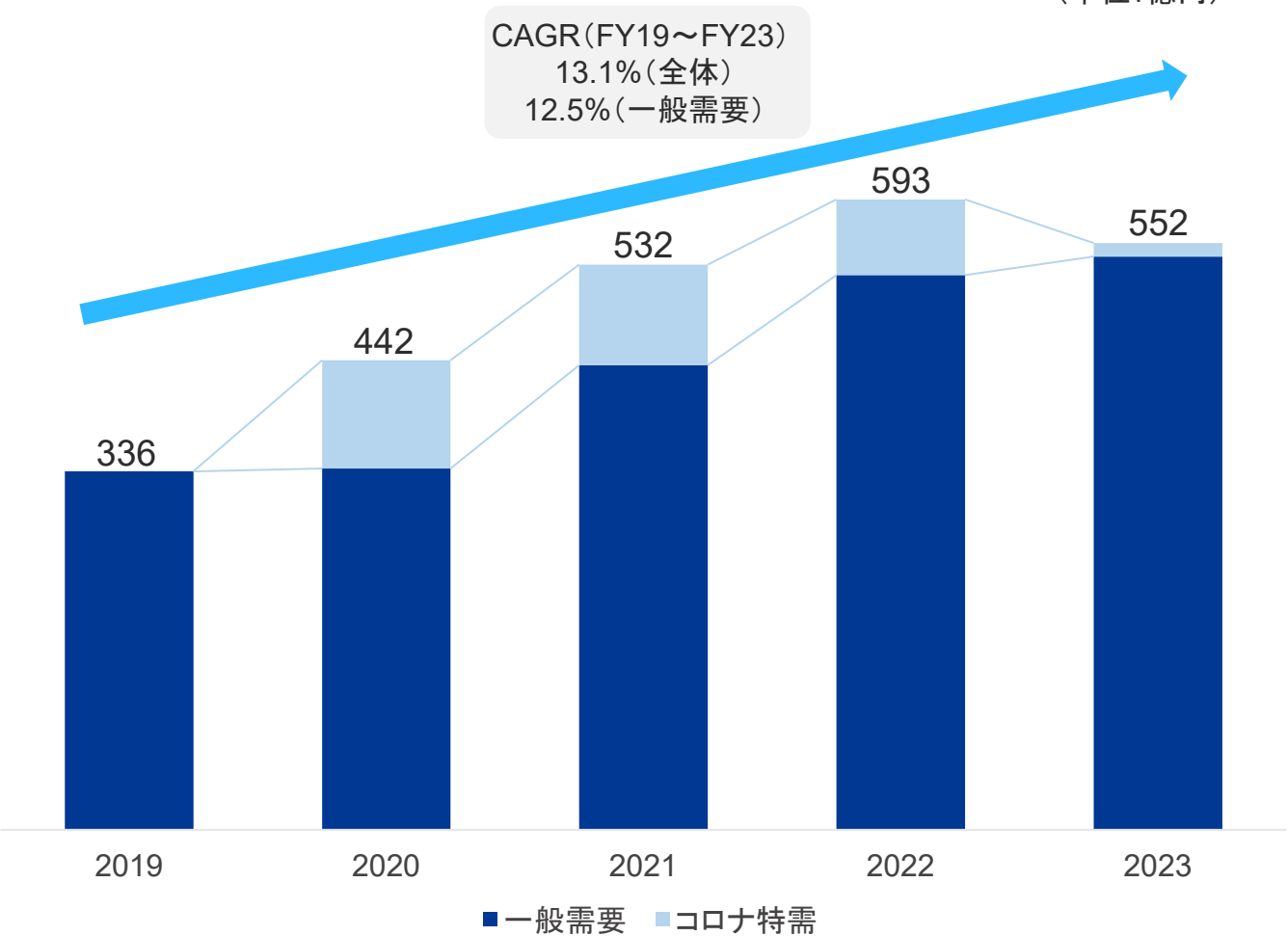
- ・代理店を活用することでグローバルにカバレッジを強化
- ・CS代理店を通じ、グローバルに保守サービスを提供



- ・コロナ特需の有無によらず着実に成長
- ・特需にも対応できる体制、築き上げてきた顧客基盤、新製品投入により、今後も着実な成長を目指す

当社バイオメディカ事業の売上(グラフ)と市場シェアの推移

(単位: 億円)



市場シェア(台数ベース) *1	2019	2023
超低温フリーザー	17%	19%
CO ₂ インキュベーター	19%	21%

*1: Frost & Sullivan 2024 report "Global Assessment of Life Science Equipment" 2023 Actualより作成

01 | 診断・ライフサイエンスドメインの位置づけ

02 | バイオメディカ事業のご紹介

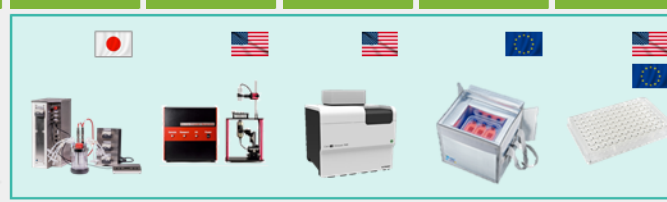
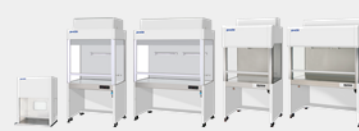
02-1 事業概要

02-2 製品・顧客・強み

02-3 CGT領域の新製品

幅広いラインナップで、ライフサイエンス分野のあらゆるニーズに対応

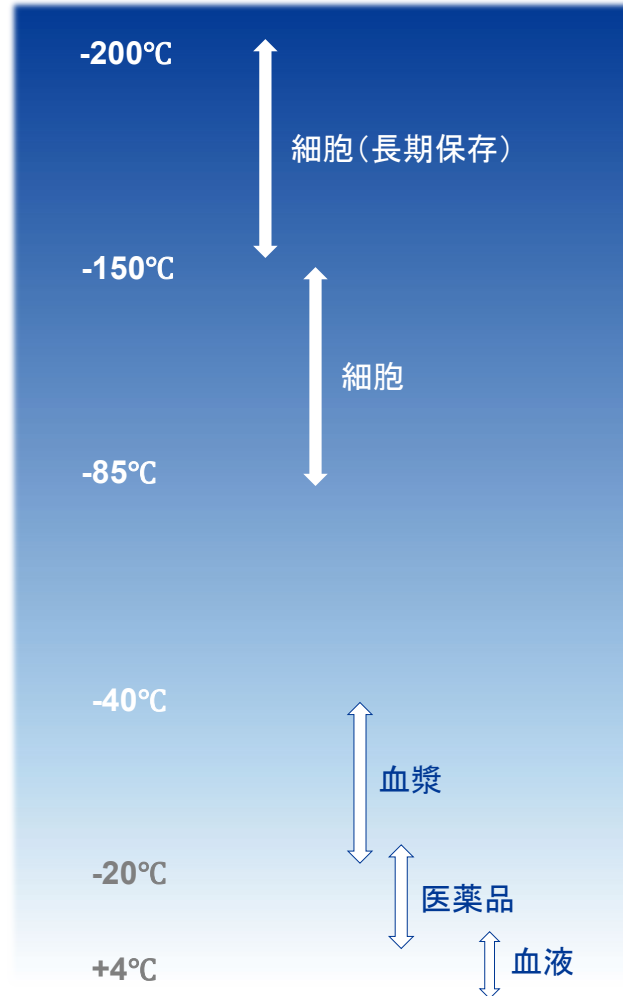
3rd party / Alliance

Cold Chain Solution 52series	超低温フリーザー 細胞や検体などを凍結保存														
	バイオメディカルフリーザー 凍結血漿・ワクチン・試薬等を冷蔵保存			薬用保冷库 医薬品・ワクチン等を冷蔵保存			血液保冷库 血液を冷蔵保存		モニタリングシステム 製品稼働状況等の管理						
CGT Solution 51series	CO2インキュベーター 動物細胞の培養			低温インキュベーター 微生物の培養		ヒーター式インキュベーター 高温培養		グロースチャンバー 植物細胞の培養		細胞代謝分析	物質生産	細胞分析	3D培養解析	細胞輸送	3D培養プレート
															
Experiment 14series	バイオハザード対策用キャビネット 清浄空間の作業台			バイオクリーンベンチ 汚染防止の作業台			滅菌装置		Pharmacy 9series	自動錠剤包装機		注射薬払出装置		散薬監査	
															
Food 6series	適温配膳車 給食の適温配膳														
															

*1: 2025年3月時点。ラインナップ数は製品本体のみ(役務は除く)

製品ラインナップについて(Cold Chain Solutionの例)

- ・保存する対象により最適な温度帯が異なり、それぞれに対応した製品を取り揃えている
- ・さらにその中で、顧客の要望を踏まえ、容量や機能性等により製品をラインナップしている



液体窒素保存容器

細胞・検体等の長期凍結保存
[-196度~-150度]



超低温フリーザー

細胞・検体等の凍結保存
[-85度/-150度/-152度]



バイオメディカルフリーザー

凍結血漿・ワクチン・試薬等の保存
[-40度~-20度]



薬用保冷库

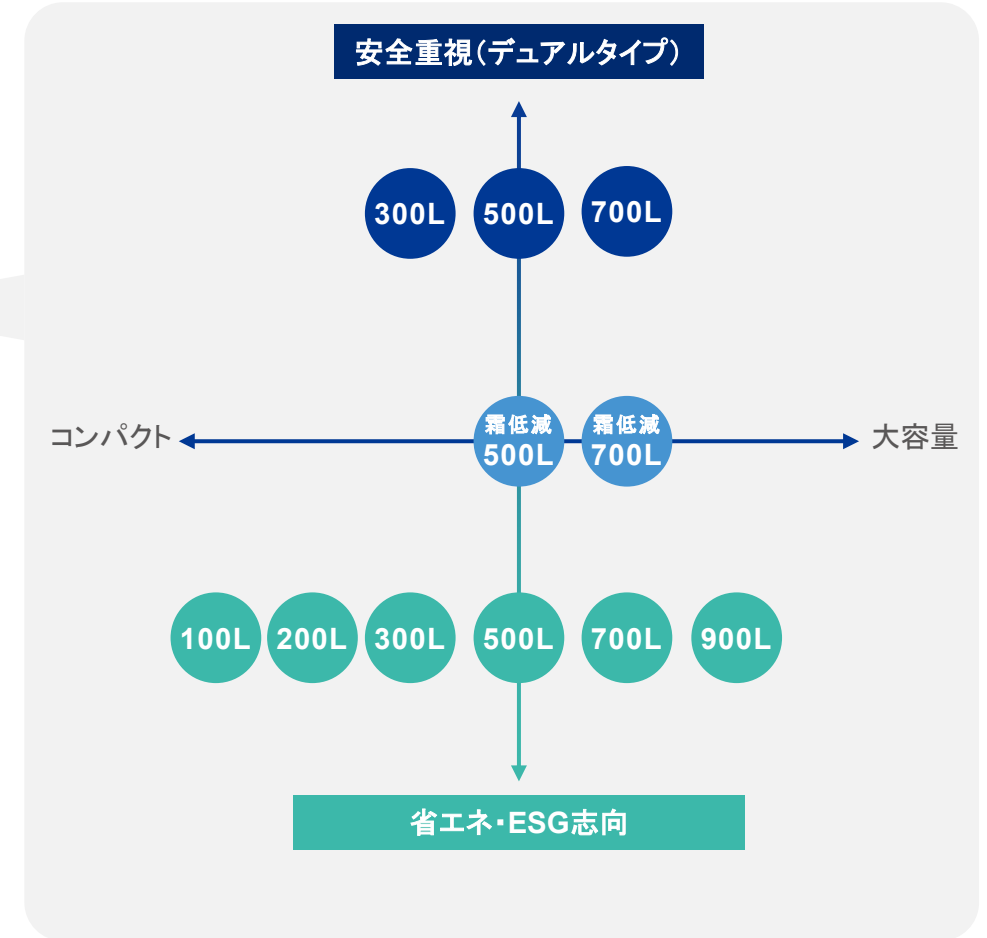
医薬品やワクチン等を保存
[-23度~2度]



血液保冷库

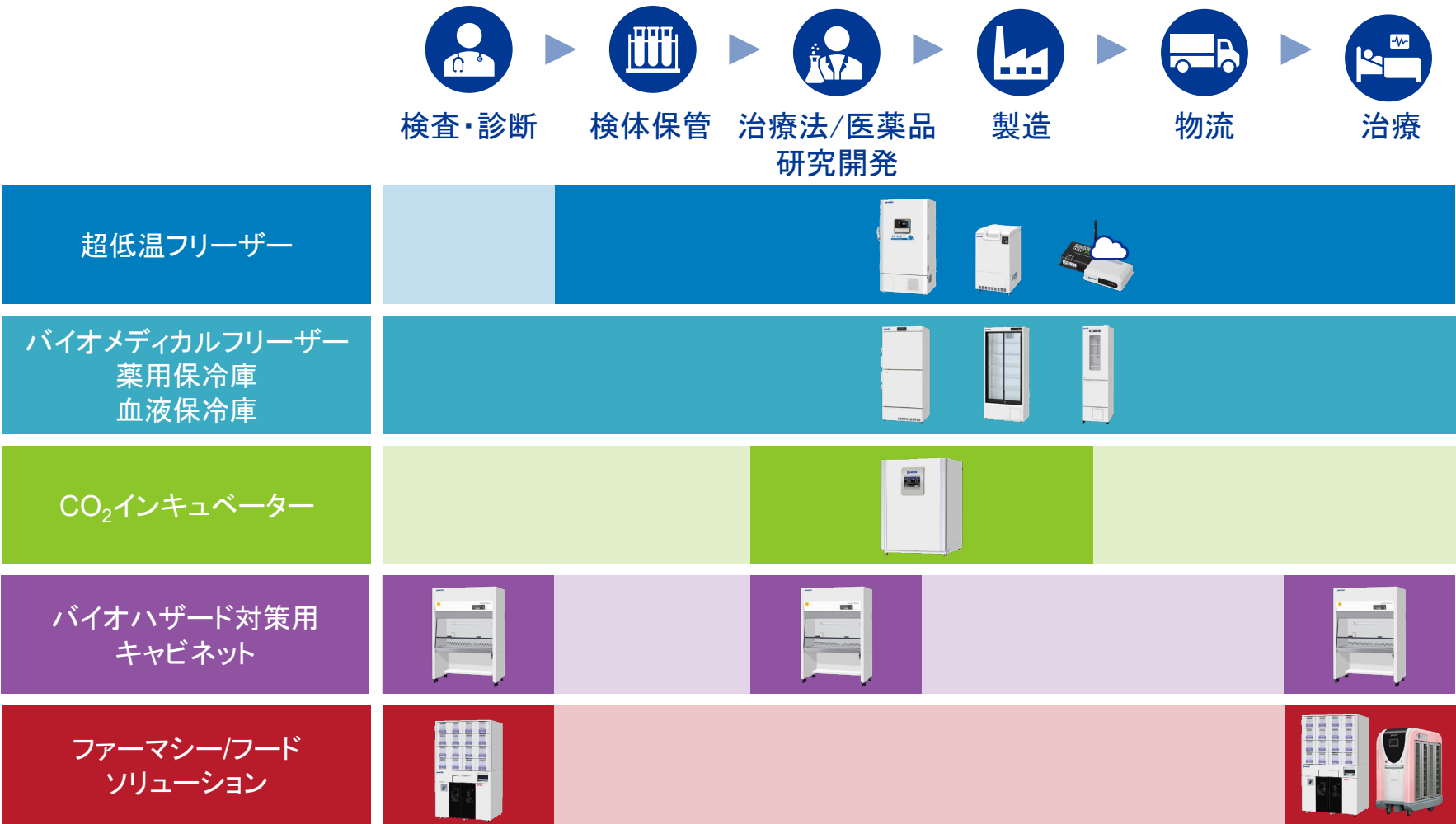
血液を保存
[4度]

超低温フリーザーのラインナップ



事例: 医薬品の開発/製造/治療(使用)プロセス

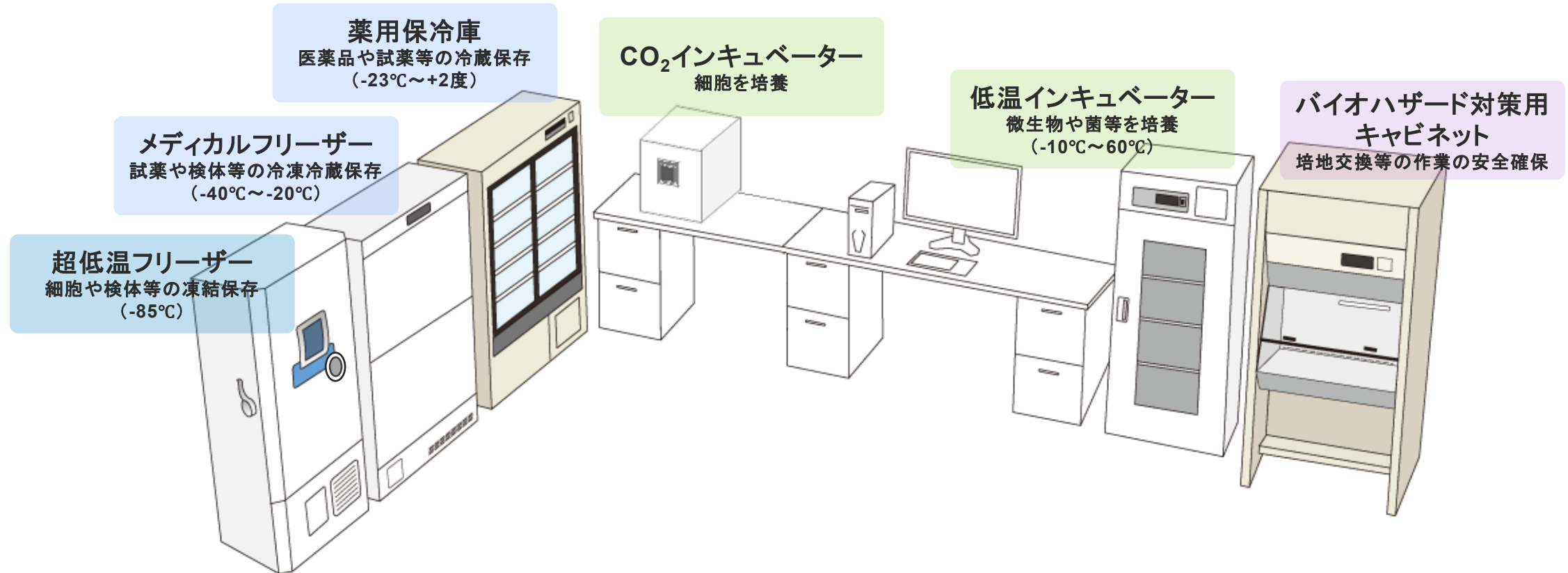
当社の製品は全てのプロセスで使用されている



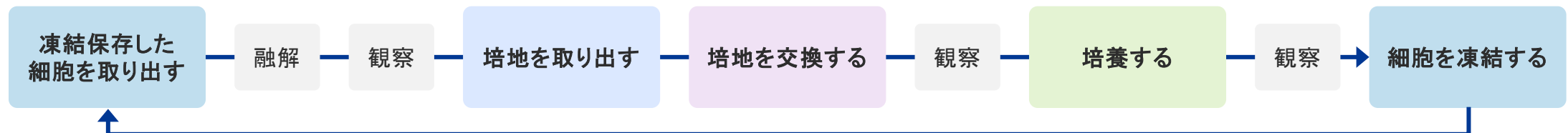
濃色部分で使用する

事例:ライフサイエンス系研究室での利用シーン

- ・あらゆる分野に存在する研究開発プロセス(研究室・検査室)において、保存・培養・実験環境機器は必須
- ・一般的に10~15年以上*1かかる創薬等の研究開発の期間、継続して資産を預かる



細胞培養 作業プロセスの例



*1: 厚生労働省資料P.11参照 https://www.mhlw.go.jp/content/10807000/001036959.pdf?utm_source=chatgpt.com

- ・様々な業界の研究開発、保存、品質管理等に利用されている
- ・各分野におけるキーアカウントを顧客としている

■政府/官庁/自治体

- ・国策による最先端医療の基礎研究
- ・感染症対策研究
- ・ワクチン保存



■食品/飲料/化粧品

- ・バイオテクノロジーを用いた製品開発
- ・品質管理

■化学/工業/エネルギー

- ・最先端技術開発、製品開発
- ・品質管理

- ▶ コロナワクチン接種プロジェクトで政府から選定

■病院

- ・検体等保存や臨床検査
(検査各部門、輸血部、薬剤部、医局)
- ・給食



■医薬品卸/医療機器

- ・医薬品及び試薬保存

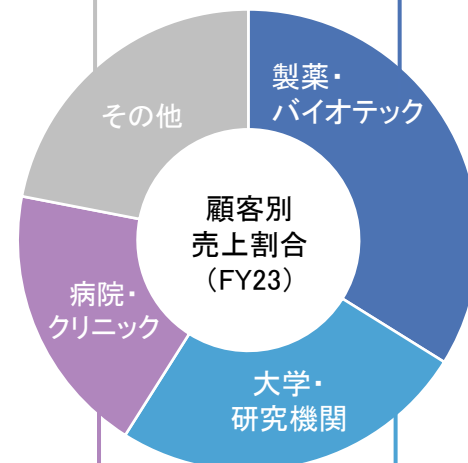
■薬局

- ・医薬品保存
- ・調剤業務自動化

■介護

- ・給食

- ▶ 米国を代表する病院が、競合3社の中で当社超低温フリーザーが最も優秀とのホワイトペーパーを発行



■製薬企業

- ・創薬における研究開発
- ・品質管理
- ・細胞/遺伝子治療の製造プロセス



■バイオベンチャー

- ・バイオテクノロジーを用いた研究開発
- ・品質管理

■CDMO

- ・細胞/遺伝子治療等の開発及び製造を受託

- ▶ グローバル製薬企業Top50はほぼ当社のお客様

■大学

- ・幅広い分野での基礎研究
(医学部、薬学部、歯学部、工学部等)



■試験研究機関

- ・感染症対策研究
- ・国策や官民共同による最先端医療の基礎研究

- ▶ 大学のiPS細胞研究所に、CO₂インキュベーターをはじめ多くの製品を納品し、ラボ全体をサポート

主力製品は精緻な制御が求められる超低温フリーザーとCO₂インキュベーター

超低温フリーザー



細胞をはじめとした検体等を凍結保存
マイナス80度以下で検体を保存



検体の状態を維持して保存したい

Q. なぜマイナス80度以下で保存が必要？

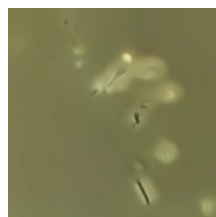
A. 生物に含まれる水分が再結晶化するのを防ぐことで、
保存前の状態をほぼ維持したまま長期保存できるため

-20℃（1日）



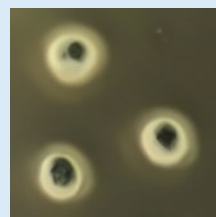
細胞膜が破損
（死滅）

-20℃（7日）



細胞が破壊
（死滅）

-80℃（6ヵ月）



正常な状態を維持
（生存）

庫内均一の温度分布と安定した温度制御 が重要

CO₂インキュベーター



動物細胞を培養
体内に近い環境で細胞を生育、増殖



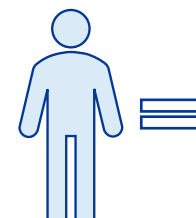
細胞それぞれに合わせて生育・増殖が
できる環境がほしい

Q. なぜ体内に近い環境が必要？

A. 生まれ育った体内に近い環境が細胞の成長や増殖に適しているため

培養する細胞に最適な環境のイメージ

最適な環境下
（例）温度37℃



不適切な環境下
（例）温度37℃±0.5℃



変動の少ない温度/湿度/CO₂濃度制御と清浄環境 が重要

顧客が保存/培養する検体とは？

- ・顧客が保存/培養する検体は、非常に貴重なもの
- ・顧客は、検体の確実な保存/培養のため、機器に高い信頼性を求めている

超低温フリーザー



顧客が保存している検体の例

- ・病院(細胞治療/再生医療): 患者から採取した細胞
- ・大学(ウィルス研究): フィールドで採取した動物組織、培養している細胞
- ・バイオバンク: 医学研究用に患者から提供された血液成分、遺伝子、組織
- ・その他(保管サービス): 顧客から預かった細胞や医薬品、治験薬原料等

CO₂インキュベーター



顧客が培養している検体の例

- ・国立研究施設(再生医療): iPS細胞の培養
- ・民間企業(再生医療): 心筋細胞の培養、製造
- ・医療施設(不妊治療): 不妊治療用の卵子や胚の培養
- ・大学(ウィルス研究): ウィルスの宿主となる細胞の培養

非常に貴重で、失われると取り戻せない検体を保存/培養
保存/培養の失敗は、検体だけでなく、それまでの成果や時間も無駄になる

顧客は、保存/培養機器に対して高い信頼性を求めている

当社製品の強み

- ・当社の超低温フリーザーの強みは、高い信頼性と省エネ性能
- ・当社のCO₂インキュベーターの強みは、高精度制御とコンタミネーション防止

超低温フリーザー

当社の強み

 高い信頼性	高い基本性能 (温度安定性)
	高い耐久性 (壊れにくい)
	故障リスク対応
	サポート体制
 高い省エネ性能	消費電力削減 (CO ₂ ガス排出量削減)

CO₂インキュベーター

当社の強み

 高精度制御	安定した温湿度制御
	安定したCO ₂ 濃度制御
 コンタミネーション防止	高い清掃性 (掃除のしやすさ)
	培養中の コンタミ防止機能
	選べる器内清掃方式

01 | 診断・ライフサイエンスドメインの位置づけ

02 | バイオメディカ事業のご紹介

02-1 事業概要

02-2 製品・顧客・強み

02-3 CGT領域の新製品

- ・LiCellMoを発売開始
- ・LiCellGrowのベータトライアルを開始

ライブセル代謝分析装置



LiCellMo™

2024年9月発売

細胞の代謝変化をリアルタイムで可視化

自動培養装置



LiCellGrow

プロセス開発用

2024年12月ベータトライアル開始

細胞培養環境を最適に制御し
細胞品質を安定化

- ・当社のコア技術を転用し、CGT領域へ参入
- ・連続的にデータを測定することで、細胞の観察及び培養の質が飛躍的に向上

In-lineモニタリング技術をコアとした製品開発

コア技術

血糖計事業で培ってきた
グルコース測定センサー技術

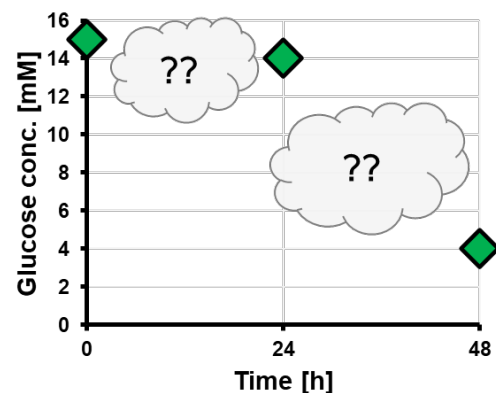


細胞培養環境における
グルコース・乳酸の連続測定技術



従来手法

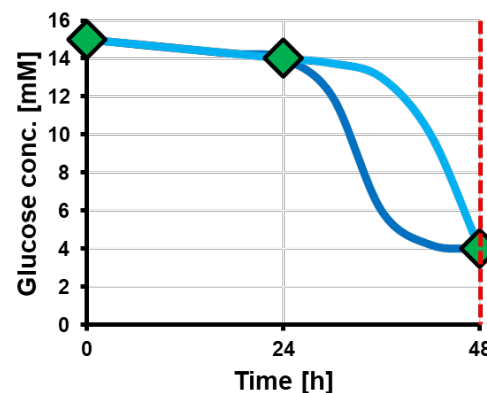
サンプリングデータ



「点」と「点」のデータで
サンプリング間の変化は見えない
適切なサンプリングのタイミングも不明

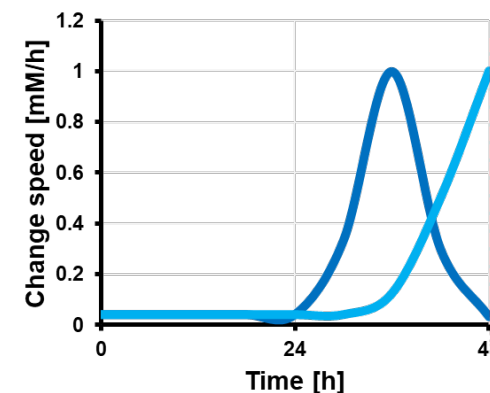
In-Lineモニタリング

連続的な濃度測定データ



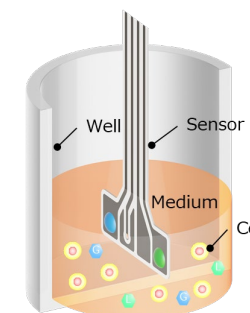
「線」のデータで変化が見える

濃度の変化速度データ



連続的な濃度の変化から
「変化速度」という指標でも分析

測定イメージ



- ・新製品と既存事業の顧客は重なる。60年にわたり培った顧客基盤があるからこそ、新領域への参入が可能に
- ・新製品はリカーリング収入も望め、PHCbiの収益基盤の多様化にもつながる

細胞遺伝子治療(CGT)領域への参入拡大に向けた商品投入戦略



PHC
GROUP